冬季五輪日本代表　鈴木芙由子選手・湊祐介選手
希望と感動をありがとう

第22回オリンピック冬季競技大会（２０１４・ソチ）が２月７日から23日まで開かれ、北秋田市出身でバイアスロン競技の鈴木芙由子選手（25）＝自衛隊冬戦教・米内沢高出＝とノルディック複合競技の湊祐介選手（28）＝東京美装・鷹巣農林高ー日大出＝が出場しました。両選手は世界の強豪を相手に健闘し、市民に希望と感動を与えてくれました。

▲団体リレーで力走する湊選手（写真提供・東京美装）

▲7.5キロスプリントで力走する鈴木選手（写真提供：冬戦教）

■健闘した鈴木選手　日本勢ではトップの成績

鈴木選手は7・5キロスプリントと10キロパシュート、15キロ個人、リレーの4種目に出場し、個人種目では、いずれも日本勢トップの成績を残しました。

9日に行われた7・5キロスプリントでは、トップと1分40秒6差の22分47秒4で39位となり、60位以内に与えられる10キロパシュートの出場権を獲得しました。

11日（日本時間の12日）に行われた10キロパシュートでは、射撃で一発外したものの、トップと3分18秒3差の32分49秒0で32位に入り、前回バンクーバー大会の同種目54位から大きく順位を上げました。

14日に行われた15キロ個人では、52位となり、21日に行われたリレーでは、第1走としてチームを引っ張り、13位に入る原動力となりました。

■役割果たした湊選手　団体で5位入賞果たす

湊選手は20日、1994年リレハンメル大会以来のメダルの期待がかかる団体に出場。前半のジャンプでは日本勢2番手で登場し、110・5メートルを飛びました。得意とする後半のクロスカントリーでは2走として力走。長身を生かしたダイナミックな滑りで、先行する選手らを追走し好タイムで3走へリレー。メダルには届かなかったものの5位入賞に貢献しました。

▲団体の後半クロスカントリーで2走として追い上げる湊選手（写真提供：東京美装）

▲7.5キロスプリントで、スタートの合図を待つ鈴木選手（写真提供：冬戦教）

■ふるさとからの熱い応援をソチへ

鈴木選手の実家では、鈴木選手が出場するたびに家族や親類のほか地域住民など約30人が集まり、ソチに向けて声援を送りました。

今大会のバイアスロン競技は、テレビの生中継が行われないため、インターネットで配信されているライブ映像を大型スクリーンに映し出し、競技の模様を観戦。メッセージが書き込まれた応援旗やバンクーバー大会に出場したときに着用したゼッケンを掲げ、鉢巻きをしめ、小旗を振って応援しました。

このうち、14日に行われた15キロ個人では、2回目の射撃を終えコースに向かう鈴木選手の姿が映ると、「芙由子、頑張れ」などと大声援が飛び交い、盛り上がりも最高潮に達し、最終順位が分ると惜しみない拍手が送られました。鈴木選手の母・美千子さん（51歳）は「競技が行われるたびに、夜遅くまで応援してくれる地域の方々に感謝したい。リレーでも頑張ってもらいたい」と話しました。

また、ノルディック複合の団体に出場する湊選手の応援会が20日、市役所阿仁庁舎で開かれ、地域住民など約60人が集まり、テレビの生中継を大型スクリーンに映し出し、横幕を掲げ日の丸の小旗を振って応援しました。

前半ジャンプでは湊選手が登場すると「祐介、祐介」のコールが会場に響き渡り、後半のクロスカントリーでも、湊選手の力走する姿が映し出されると「行け、行け」などの声援が飛び交い、メガホンをたたきながら声を張り上げました。また、チームの5位入賞が決まると「頑張った」と大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

応援会を主催した、阿仁スキークラブの加賀谷祥夫会長（65歳）は「湊選手は阿仁のホープ。まだまだやれると思うので、応援していきたい」と話し健闘を称えました。また、湊選手の父・隆男さん（57歳）は、「調子が上がらず、苦しい思いをしている中で、よく頑張ってくれた」と労をねぎらいました。

■看板や垂れ幕、激励会でエールを送る

市内では、鈴木選手と湊選手のソチ冬季オリンピックの出場を称えようと、市役所や公民館、体育館、駅のほか、森吉山阿仁スキー場、地元自治会、両選手の出身校にあたる秋田北鷹高校などにも看板やのぼり旗、垂れ幕が掲げられました。

湊選手の地元阿仁荒瀬地区では、荒瀬自治会が国道105号沿いの荒瀬コミュニティセンター前に「祝ソチ五輪出場　湊祐介選手」などと書かれた看板と、湊選手が滑っている写真が入ったのぼり旗10本を立て、エールを送りました。

また、体育協会主催の激励会が開かれたほか、地元の児童たちが書いた応援メッセージが両選手に届けられるなど、市内はオリンピックムードとなりました。

競技結果

■バイアスロン（女子）
鈴木芙由子選手

▽7.5キロスプリント	39位
▽10キロパシュート	32位
▽15キロ個人	52位
▽24キロリレー（6km×4人）	13位

（鈴木芙由子、小林美貴、中島由貴、鈴木李奈）

■ノルディック複合
湊祐介選手

▽団体《飛躍、距離（5km×4人）》	5位

（永井秀昭、湊祐介、渡部善人、渡部暁斗）